



11/20 (土) 児童センターで遊ぼう！

児童センターでの遊びや活動を紹介しながら市民に利用促進を呼びかけ、子ども達の交流を図ることを目的に、市制施行40周年記念事業「第6回児童センターフェスティバル」が市多目的屋内運動場で開催されました。

本市では、各小学校区に児童センターを1か所設置するという目標を掲げ、平成22年5月にそれを達成し、今回は全小学校区の児童センターがそろそろ初めての開催となりました。集まった児童らは、全体レクを始め、「昔遊びコーナー」や「手作りコーナー」などでの体験や、ジャグリングなどのアトラクションを楽しみ、にぎわいを見せていました。



11/23 (火) 自治会の枠を超え、地域活性化へ

浦西中学校区地域住民の地域の活性化等を目的として、「第4回浦西中学校区地域交流ゆいゆいフェスタ」がパークレースコート駐車場で開催されました。

会場ではバザーやフリーマーケットが行われたほか、舞台発表では園児や小中学生、自治会サークルによる演舞が繰り広げられ会場を沸かせました。

主催した同フェスタ実行委員会の又吉委員長は「地域には、自治会単体では解決できないさまざまな問題があり、自治会の枠を超えた取組が必要である。地域間の交流、親睦を深めるために地域の八つの自治会が協働で取り組み、参加者も年々増加している」と、話しました。



11/30 (火) コミュニティバス出発式

国道など、幹線道路から離れた公共交通空白地域の利便性向上、改善および沖縄都市モノレールと連結した交通網の整備を目的として12月1日から市コミュニティバス社会実験が開始されました。

運行ルートは市立図書館前からモノレールおもろまち駅前までの約10キロで、公共交通機関がない場所を網羅しています。料金は一律200円となっていて、2月28日までの3か月間で事業採算性などを検証し、本格運行を目指します。

社会実験開始に先立って行われた出発式で市長は「本格導入が実現すると、利便性が向上し、高齢者の社会活動機会の増大、公共施設や商業施設へのアクセスが向上するなど幅広い効果が期待できます」と、述べました。

コミュニティバスの詳細情報は市ホームページ(<http://www.city.urasoe.lg.jp/>)またはバスロケーションシステム(<http://www.ryukyubuskotsu.jp/map/>)をご覧ください。



12/10 (金) 先代たちが残してくれた前田棒を伝え続けたい！

各地域の伝統的な民俗芸能や行事に触れる機会を市民に提供する市民歴史講演会「前田棒の歴史と先人たちの想い」が市ハーモニーセンターで開催されました。

講演会では、佐久田朝教氏(前田棒保存会事務局長)を講師に迎え、前田棒の解説が実演鑑賞を通して行われました。市指定の無形民俗文化財である前田棒は、明確な起源は分かっていませんが、ずっと昔から太平洋戦争の前まで集落行事として演じられ、子孫繁栄と豊年満作を祈願していたと伝えられています。

約60人が参加した会場からは多くの質疑があり、前田棒への関心の高さが感じられました。



12/7 (火) 県民体育大会での結果を報告

「第62回沖縄県民体育大会」で見事優勝を果たしたハンドボール男子(5年連続18度目)、ハンドボール女子(9年連続19度目)、空手道(5年ぶり4度目)、軟式野球(8年ぶり3度目)の4種目について、各代表者および体育協会の役員による市長への報告会がありました。

大会は11月27・28日に開催され(一部種目を除く)、14市郡対抗で熱戦が繰り広げられました。浦添市は、昨年に引き続き男女総合6位という結果に終わりましたが、優勝した4種目以外にもゴルフ、サッカー、相撲が準優勝するなど、来年は更なる総合順位の上位進出が期待されます。



11/23 (火) 2010 うらそえYA文芸賞表彰式

市立図書館では、中学生から大学生(概ね13歳から22歳まで)をYA(ヤングアダルト)世代と称し、YA世代の読書推進に取り組んでいます。活動計画の1つとして昨年度から「うらそえYA文芸賞」が創設され若い世代の作家の登竜門となっています。

今年度は、市制施行40周年記念および国民読書年事業の一環として実施され、表彰式が市てだこホール小ホールにて行われました。多くの応募の中から今回表彰された受賞者は以下のとおりです。

【短編小説部門】

煌賞 上岡 美香(p6~p8参照)
輝賞 後藤 志穂
審査員特別賞 平井 康治

【詩部門】

煌賞 原国奈津紀(p8参照)
輝賞 又吉 彩乃
審査員特別賞 西原 裕希



11/16 (火) 図書館入館者数50万人達成

平成20年5月にリニューアルした浦添市立図書館の入館者が早くも50万人を達成し、その記念式が行われました。

来館50万人目となった市内在住の古賀日奈子さんは「大変光栄に思います。図書館へは2週間に一度、子どもの絵本を借りに来ています」と、語りました。

2年前のリニューアルでは、ICゲートを導入し、貸出人数以外の館内利用者実数の把握が可能となったほか、資料紛失防止が図られました。また、電算システムを一新したことにより、リアルタイム蔵書検索、インターネット予約なども可能となりました。是非ご利用ください。